

(様式1) 平成24年度 山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書 (自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	子どもたちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。
-----------	--

山梨県立富士見支援学校旭分校 校長 山本 隆

本年度の重点目標	1 生徒の実態に即した支援を進める	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 分かりやすい楽しい授業実践に努める	B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 前籍校や他機関と連携し、進路指導の充実を図る	C 不十分である。(4割以上)
		D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			年度末評価(1月25日現在)
番号	評価項目	具体的方策	自己評価結果
1	生徒の実態に即した支援を進める	柔軟な日課表の設定や評価方法の工夫を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や学部会での情報交換や生徒の実態に即し、担任の原案を元に個々の日課表を毎週柔軟に設定して運用した。このような取り組みにより、登校を促すとともに、授業時間数の確保が出来ており、生徒、保護者からも良好な評価を得ることが出来た。 ・月2回の校内研究会と2回の外部講師による研究会を実施し、支援のあり方についての事例・授業検討を通して、児童生徒の実態と課題を明確にすることが出来た。 ・学部会や朝の打ち合わせ時における情報交換を基にして、情報の共有化をはかり、実態に即した生徒指導が出来ている。生徒、保護者からは良好な評価を得ることが出来た。
		具体的な支援に活かせる校内研究を進める	<ul style="list-style-type: none"> ・学部会での検証、生徒・保護者アンケート ・全体研究会等での検証
		実態に応じた生活指導を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート
2	分かりやすい楽しい授業実践に努める	個別の指導計画と評価の一体化に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画とそれに対する評価については、毎学期、作成時と評価時に検討会を行い、情報の共有をはかりながら一体化するよう努め、概ね成果を挙げることが出来た。 ・授業実践報告などを通して教材研究や指導法の工夫改善を図ることが出来たが、生徒の情緒的な理由から授業担当者以外の授業参加が難しく、実際の授業を見ながらの取り組みには課題が残った。 ・前年度に比べ、授業に導入している教科や時間数が増え、生徒が効果的に活用されていると捉えている割合も増加している。
		授業研究の開催や教材研究・指導法の工夫を進める	<ul style="list-style-type: none"> ・学部会での検証 ・全体研究会等での検証
		ICTを活用した授業実践に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究会での検証 生徒・保護者アンケート
3	前籍校や他機関と連携し、進路指導の充実を図る	実態に即したキャリア教育の全体指導計画を確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・学部会で段階を追った検討を繰り返し、職員の共通理解を図りながら、在籍している生徒に適した改定を行うことができた。 ・朝の会や自立活動の時間、進路集会や独自の進路希望調査などの機会を捉え情報提供、支援を行った。ほとんどの中3生が自分自身で進路を決めることが出来た。 ・前籍校に転出した生徒の中で緊密なフォローアップが必要な生徒に対しては、濃密な関わりが出来た。高校進学者に対しては、保護者からの情報収集を年2回行うことが出来た。 ・転出先等の連携回数
		情報の共有化を図り、進路希望の明確化をめざす	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の進路に対する満足度
		転出児童・生徒のフォローアップを充実する	<ul style="list-style-type: none"> ・転出先等との連携回数

学校関係者評価	
実施日 (平成25年2月14日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の児童生徒の実態に合わせた支援が行われており、学校全体の共通理解が図られ、効果的なチーム支援となるよう取り組まれていると思います。 ・様々な病態の生徒がいるなかで、個々の状態や理解度に合わせた授業や研修が行われています。先生を中心に生徒や保護者、医療などと連携をとりながら、個々の生徒が必要とするプログラムを作っていくください。 ・北病受診という条件があり、在籍数を増やすには高いハードルがあると思いますが、発達障害等には知的に高い子も多く、北病受診に抵抗感を持つ場合も多いので、より柔軟な対応を望みます。個々の生徒の実態に合わせた支援を継続するとともに、保護者、専門機関等と連携を図って支援の輪を広げて欲しい。 ・基礎学力が身につけていない児童生徒に対しては、基礎学力が低い原因を考えながら対応することや、指導の前後での変化が分かるような評価方法を検討することも必要。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究や指導法の工夫等の実践の成果をどのように残していくかを考える必要があります。 ・生徒が、安心して楽しく授業を受けていることが分かりました。生徒が安心してできる環境を提供することが病態の改善にもつながると考えます。 ・個別の指導計画は、教師間で常に評価しアセスメントして課題を明確にしていってほしい。教材や指導の工夫に対しては専門家のアドバイスを積極的に受けるようにしてください。 ・生徒が毎日登校したくなるような教育内容の工夫が必要だと思います。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体計画の改定等積極的な取り組みがなされています。フォローアップ支援は是非継続してください。 ・前籍校に戻ったり進学しても適応していけるサポートが行われており、進路指導もきめ細かい対応がなされていると感じました。 ・中3生が自分自身で進路を決められたことはすばらしい事です、先生方が丁寧に関わった結果だと思います。北病でフォローする方は長いスパンで関わっていく必要があるので、専門機関と連携を図ってフォローして欲しいと思います。 ・生徒が実際にいろいろな職業に接していくことも大切、生徒が興味を持っている職種の方から話を聞く機会を設けたり、キッザニアに行ってみるなどを取り入れてはどうか。